

2021

中国地域

J-クレジット制度の
しおり

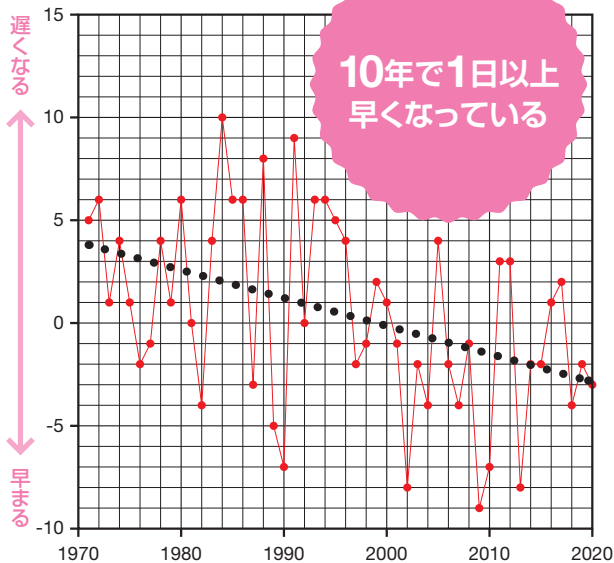
地球温暖化の影響

温室効果ガスの排出量の増加に伴い、
中国地域においても着実に地球温暖化の影響が出ています。

桜の開花日下関

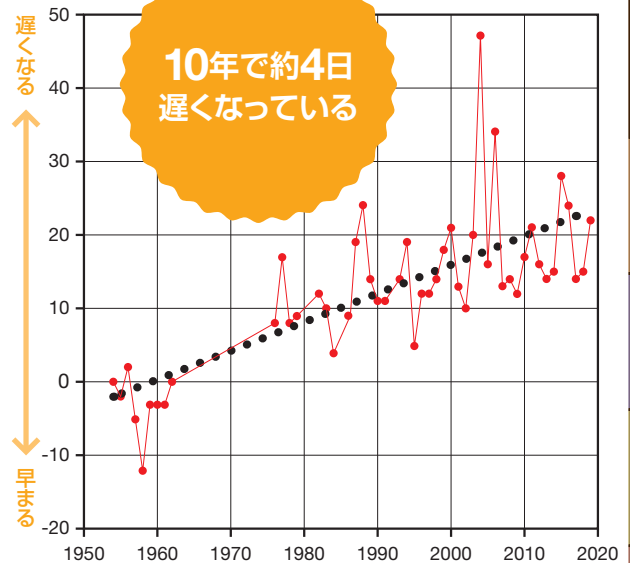
【1981～2010年の平均値】3月27日からのずれ

$$y = -0.135x + 269.93$$

楓の紅葉日下関

【1954年の紅葉】11月18日からのずれ

$$y = 0.3873x - 758.88$$



出典：気象庁「生物季節観測の情報」

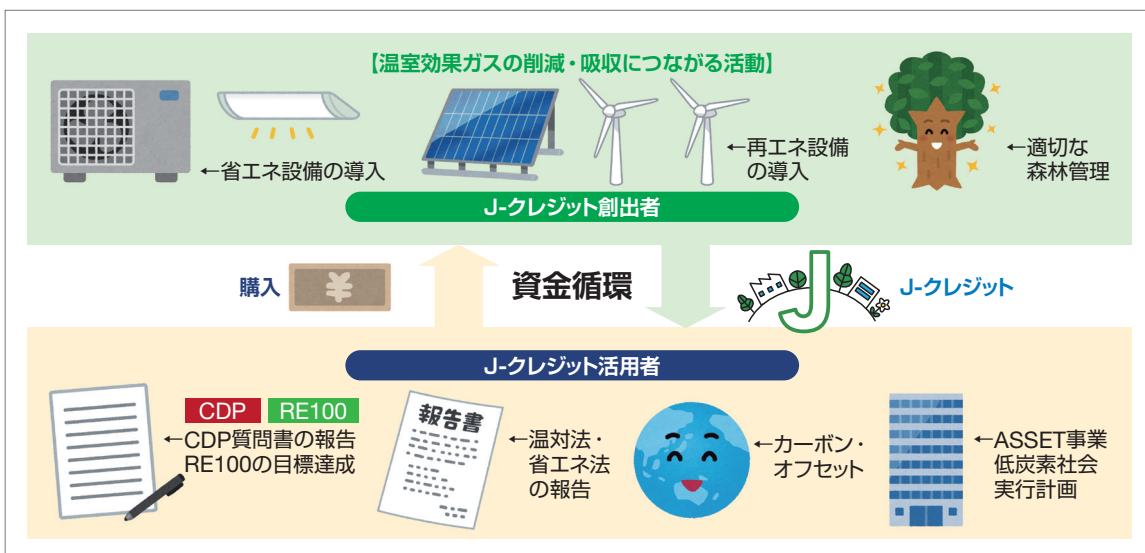


経済産業省
中国経済産業局

1 J-クレジット制度の概要

J-クレジット制度は、省エネ・再エネ設備の導入や森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度です。

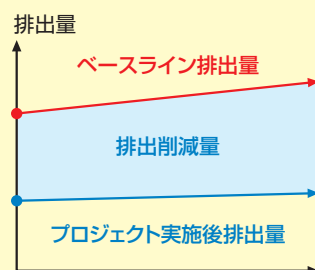
本制度により、民間企業・自治体等の省エネ・低炭素投資等を促進し、クレジットの活用で国内の資金循環を促すことで環境と経済の両立を目指します。



2 J-クレジットを創出する

例えば、A重油ボイラーを木質バイオマスボイラーに更新した場合、A重油ボイラーの運用により排出される温室効果ガスの量と、木質バイオマスボイラーの運用による排出される温室効果ガスの量の差がJ-クレジットとなります。現在、63の方法論が承認されています（以下はその一部抜粋です）。

分類	方法論名称
省エネルギー等	ボイラーの導入
	照明設備の導入
	コージェネレーションの導入
再生可能エネルギー	バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替
	太陽光発電設備の導入
	風力発電設備の導入



クレジット認証の考え方

ベースライン アンド クレジット

ベースライン排出量（対策を実施しなかった場合の想定CO₂排出量）とプロジェクト実施後排出量との差である排出削減量を「J-クレジット」として認証

3 J-クレジットを活用する

J-クレジットは右記の用途に使うことができます。活用方法により、使用できるクレジットの種類が限られています。

※1 Carbon Disclosure Project機関投資家の代理人として企業に「CDP気候変動」等の質問書を送付し、回答内容の開示及び格付けを実施する。※2 Science Based Targets パリ協定と科学的に整合した温室効果ガス削減目標の設定を企業に促す。事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量（サプライチェーン排出量）を対象とする。※3 Renewable Energy 100% 企業のグローバルな事業運営に利用する電力について、2050年までの100%再生可能エネルギーで調達することを宣言するイニシアティブ。※4 報告可能な値はプロジェクトごと、認証回ごとに異なる。※5 低炭素社会実行計画に参加している事業者が創出したクレジットは対象外となる。

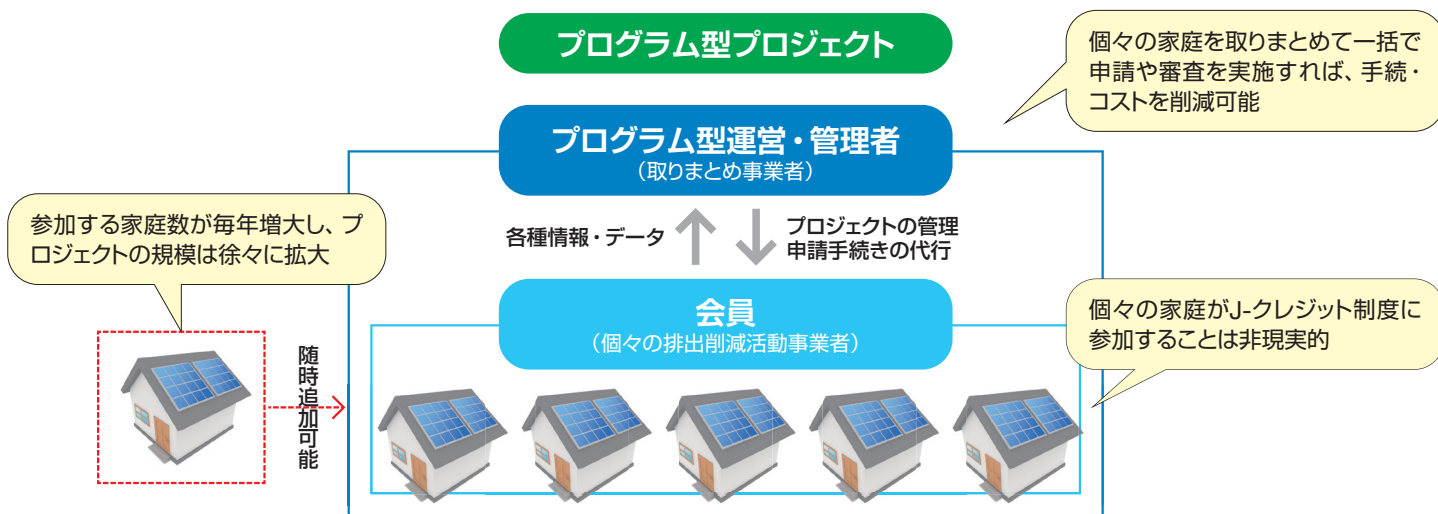
用途	J-クレジットの種類			
	再エネ発電	再エネ熱	省エネ	森林吸収
温対法での報告（排出量・排出係数調整）	○	○	○	○
省エネ法での報告（共同省エネルギー事業に限る）	×	×	○	×
カーボン・オフセット	○	○	○	○
CDP報告書※1・SBTへの報告※2	○※4	○※4	×	×
RE100達成のための報告※3	○※4	—	—	—
ASSET事業の目標達成	○	○	○	○
低炭素社会実行計画の目標達成	△※5	△※5	△※5	×

4 J-クレジットを調達する

- 相対取引**：仲介事業者を介する等、相対取引でクレジットの売買価格と売買量を決めます。
- J-クレジット制度HP**：J-クレジット制度HP「売り出しクレジット一覧」に掲載され、売りたい方と買いたい方との相対取引でクレジットの売買価格と売買量を決めます。
- 入札販売**：J-クレジット制度HP「売り出しクレジット一覧」へ掲載後、6か月以上取引が成立していない場合、希望者は入札販売の対象となります。

5 プロジェクトの種類（通常型とプログラム型）

- **通常型プロジェクト**：1つの事業者がプロジェクト実施者（クレジット創出者）となります。
- **プログラム型プロジェクト**：小規模な削減活動をまとめ、1つのプロジェクトとして随時削減活動を追加できます。



通常型プロジェクトの事例

CO₂排出削減量 約150 t-CO₂

島根県雲南市・温泉施設における 木質バイオマスボイラーの導入(チップ)

雲南市の木次健康温泉センター（おろち湯ったり館）は、島根県雲南市木次町にある温泉施設です。温泉の給湯・加温用の木質チップボイラーを導入し、従来の化石燃料と系統電力の使用量を低減し、大幅なCO₂排出削減を行っています。

A重油ボイラー（349kW×1台）
電気HP給湯機（43kW×4台）

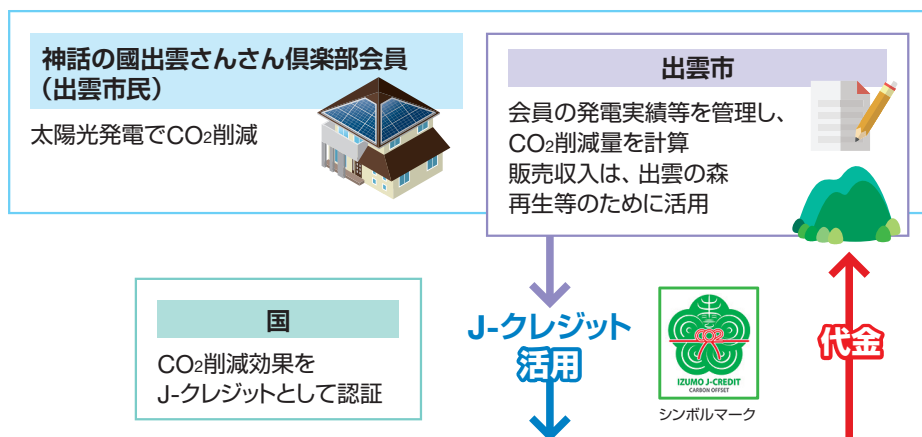
更新 → 木質バイオマス（チップ）
ボイラー（300kW×1台）

既存ボイラーとHPは補完使用

プログラム型プロジェクトの事例

島根県出雲市・神話の國出雲さんさん倶楽部

島根県出雲市では、市民の太陽光発電設備の導入によるCO₂排出削減効果をプログラム型プロジェクトとして出雲市が管理し、J-クレジットを創出しています。これを出雲市内のイベントや地元企業が活用し、クレジットの売却益を出雲の森の再生等に活かすことで、環境にやさしい街づくりを推進しています。



イベント・商品のオフセット

神門通りおもてなし協同組合：夏祭り
いずも産業未来博実行委員会：産業イベント

神門通りおもてなし協同組合：環境商品
出雲くにびきマラソン：マラソン大会 等

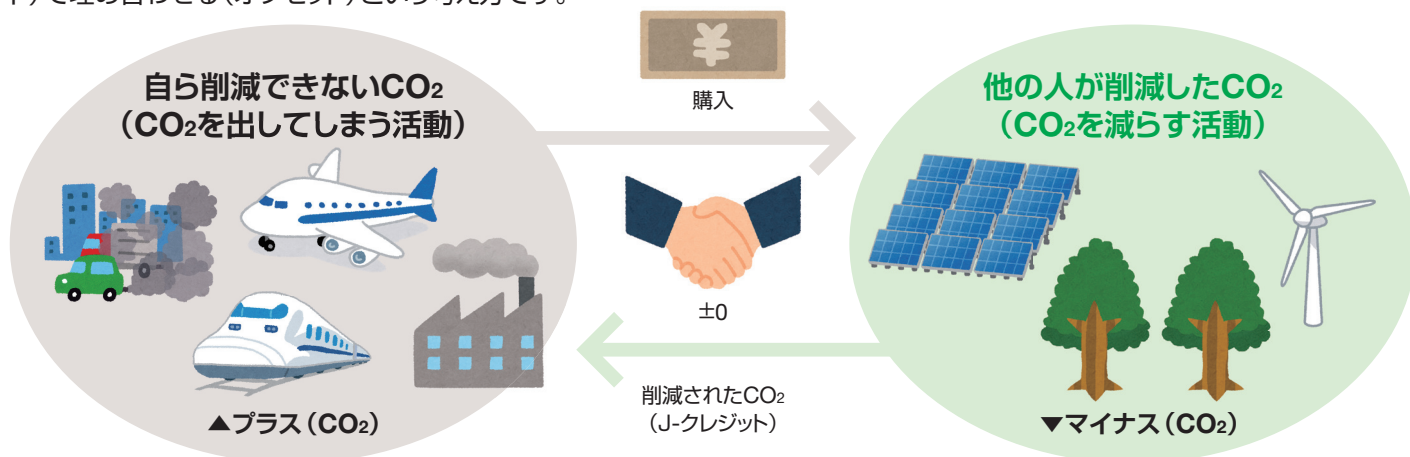
地元企業のオフセット

(有)土江重機、(株)島根日日新聞社、
福間商事(株) 等

6 カarbon・オフセットについて

カーボン・オフセットとは

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動で排出するCO₂等の温室効果ガスについて認識し、できる限り排出量の削減努力を行った上、どうしても避けられないCO₂排出量（カーボン）の全部又は一部を他の場所でのCO₂排出削減／吸収量（クレジット）で埋め合わせる（オフセット）という考え方です。



カーボン・オフセットの事例

島根県出雲市・福間商事株式会社のカーボン・オフセット

福間商事株式会社（島根県出雲市）では、株式会社山陰合同銀行（島根県松江市）の仲介により、出雲市の「神話の國出雲さんさん倶楽部クレジット」を活用し、自社商品（複層ガラス、ハウス栽培トマト）のカーボン・オフセットを行いました。環境価値の地産地消を通じて、出雲市のエネルギー政策に協力し、出雲の森再生事業に貢献しました。



カーボン・オフセットの事例はこちらをご覧ください。 <https://japancredit.go.jp/case/offset/>

カーボン・オフセットの手続き

1 排出量の算定

自らの活動により、どの程度の温室効果ガスを排出するか算定する。

2 削減努力をする

可能な限り温室効果ガスの排出削減努力を行う。

3 クレジットの調達

排出量の全てあるいは一部に相当するクレジットを購入する。

4 オフセット

クレジットの償却等の事務手続を行う。